

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

ジャーナリズムの未来を語り尽くす

『ジャーナリズムは甦るか』

池上彰（1973年経済学部卒）、大石裕（法学部長）、片山社秀（法学部教授、駒村圭吾（常任理事、法学部教授）、山腰修三（メディア・コミュニケーション研究所准教授）著
慶應義塾大学出版会／1296円（2015年3月）



日本のジャーナリズムの現状を、「対論」と「座談」の2部構成で語り尽くした一冊。第一部は池上君と大石教授の対論「今、日本のジャーナリズムを考える」。福島第一原子力発電所事故の「吉田調査」誤報問題、従軍慰安婦に関する「吉田証言」虚偽問題、さらに池上君のコラム掲載拒否問題もからんでの朝日新聞の「おわび」に至る動きを追い、ジャーナリズム不信などのテーマで語り合う。第二部「ジャーナリズムを見る視覚」では、大石教授を中心に、片山教授、駒村教授、山腰准教授が、原発報道、言論・表現の自由と国益などについて、白熱した討論を展開する。

教職員執筆の新刊

●兼好法師著、小川剛生（文学部准教授） 訳注
『新版 徒然草 現代語訳付き』角川ソフィア文庫／1166円（2015年3月）

●鹿園直建（名誉教授） ほか著
『地球温暖化シミュレーション 地質時代の炭素循環』慶應義塾大学出版会／3456円（2015年3月）

●池田真朗（名誉教授） 著
『新世紀民法学の構築―民と民との法を求めて』慶應義塾大学出版会／2268円（2015年4月）

●菊澤研宗（商学部教授） 著
『ビジネススクールでは教えてくれないドラッカー』祥伝社新書／842円（2015年4月）

●吉田友子（商学部教授） 著
『アカデミックライティング入門 第2版―英語論文作成法』慶應義塾大学出版会／2160円（2015年4月）

●清田耕造（産業研究所教授） 著
『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版／2700円（2015年5月）

慶應義塾この一冊

『公智と実学』

猪木武徳著
慶應義塾大学出版会／2592円
（2012年10月）



40歳を過ぎて、福澤諭吉著作を読み返し、主要作品を座右に置いて親しむほど魅せられたという著者が、福澤の精神に学びつつ新聞に連載した時論と義塾その他での講演を軸にまとめた。一般に私（民間）重視の社会改良家として論じられることの多い福澤だが、『文明論之概略』において、文明社会には「公智」と「公徳」が重要不可欠であると論じている点に注目し、福澤の公共性に対する哲学を読み取り、考察する。本書により、福澤の遺した言葉を、新しい視点から味わうことができる。